

<研究名称>

眼窩吹き抜け骨折の術式の改良と治療・効果についての研究及び調査

<研究申請者>

耳鼻咽喉科 高林 宏輔

<研究期間>

2000年4月～2014年3月までと2014年4月以降を比較・調査

<研究の目的・意義>

<実施内容（方法）、危険性（副作用）等>

以前より線状型骨折以外の骨折型に対して鼻内内視鏡下の遊離骨片を全て除去し、眼窩壁の再建を行うことなくシリコンプレートとバルーンで整復固定する術式（従来法）を施行してきた。2014年4月から眼窩下壁の骨を残しながら2枚のシリコンプレートを用いて眼窩を再建する新術式を考案した。従来法においては術後の眼球運動の改善は得られるものの、術後眼球陥凹を回避できない患者が存在していたが、新術式は従来法に比べ術後の眼球陥凹の出現を回避することが期待できる。さらに術後の眼球運動は従来法に遜色ないものとなる。2014年4月から改良した術式で施行した患者と対象に、術後1年以上経過した患者の結果を過去の術式と比較し改善したかどうか調査する。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

耳鼻咽喉科 副部長 高林 宏輔

<倫理上問題になると考えられる事項、その他特記事項>

改良術式について、過去の術式を組み合わせる実施した報告がないこと。

<ICのための説明・同意に関すること>

同意書あり

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 耳鼻咽喉科 高林 宏輔

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648